

ヤマハ研究開発センター

剣持 秀紀 氏

オリコンCDチャートで1位を獲得したり、カラオケでも多くの人に歌われたりと、今、人気を博しているVOCALOID。その音声合成技術の開発者、剣持氏に突撃インタビューをしました！（紅梅）

VOCALOID開発者として

——剣持さんにとってVOCALOIDとはなんですか？

声、歌が出てくる新しい楽器だと私は思っています。また、クリエイターが世の中の人々を感動させる、そのためのツールの一つだとも感じています。

——開発のきっかけを教えてください

音声合成技術の開発自体は10年ほど前にさかのぼります。当時はコンピュータの合成技術や電子楽器の発達によって、普通の楽器の音はかなり再現できるようになっていましたが、いまだ人の歌声に関しては困難な状況でした。しかし、いつかは間違いなくコンピュータによる音声合成の時代が来る。だから楽器メーカーとして、音声合成技術に着手する必要があったんですね。

——昨年10月に新製品が発売されたそうですが、その特徴は何ですか？

新製品VOCALOID 3では、ベタ打ち（調整をせずに単に声を割り当てること）で

も、ある程度質のよい歌声を作ることが可能になりました。また、VOCALOIDの歌声と伴奏がこのソフトで同時再生できるようになり、使いやすくなっています。

——これからの展望は？

これからも、VOCALOIDをもっともっとよくしていかなければならないと思っています。開発当初はバックコーラス程度での利用を想定していましたが、おかげ様でリードボーカルとして使っていたとおり、オリコンで1位をとるほどにもなりました。ですが、人間の歌声に比べればまだまだ感情が足りません。その点を改善していきたいですね。それに加え、さらに使いやすくしていきたいです。若い人がいわゆる「ボカロ曲」を聴くようになってきており、曲を作りたいと思う人も増えてきました。だから、VOCALOIDによる作曲を簡単に始めることができるような環境を作りたい。そして、将来的には誰もが気軽に作曲できるようになればいいなと思っています。

VOCALOID（ボーカロイド）とは？

ヤマハが開発した音声合成技術および、その応用ソフトウェア。楽譜と歌詞を入力し、強弱やビブラート、ブレスなどの表情情報（ライブラリ）を加える事で、まるで人間のような歌声を出すことができる。

歌声ライブラリという、実際の歌手の声から抽出した歌声のデータを用いており、「初音ミク」「鏡音リン・レン」などのさまざまなキャラクターを作り出している。

「初音ミク」「鏡音リン・レン」はクリプトン・フューチャー・メディア株式会社の著作物です。
© Crypton Future Media, Inc.

企業で研究すること

——企業で研究することは大学での研究とどう違うのでしょうか？

最終的には、お金に結びつかなければならないというのが企業研究の一番の大きな特徴です。企業の研究は最終的にはなんらかの製品に結びつき、世の中に出ていきます。一方、社会や国、人類の将来のために長い年月をかけて、お金には直接かかわらない部分で行うのが大学の研究だと思います。ですから、大学では製品までもっていくことは難しい。たとえばこのVOCALOIDの製品化は大学ではできないことですね。大学ならば音源のアルゴリズム開発で終わっていたところです。どっちがいい悪いという話ではなくて、役割の違いですね。

企業での研究に関しては、お金が大切だと先ほど言いました。しかし、一番大

切なのは、この技術を使って世の中の人をどのように幸せにできるかという視点を持つことではないか、と最近感じています。VOCALOIDという製品を通して人を幸せにしていける、そのような研究がここでできているという点では、私は幸せだと思いますよ。

——技術者としてこれだけは譲れないところはありますか？

やはりいい音、VOCALOIDに関してはいい合成音を追求していくことです。音あつての商売なのでそこはかなり気にしていますね。世の中の人を楽しませ、もっと豊かな音楽生活を送ってもらえるようにすることが、私のやっていることです。目先の利益だけではなく、そのような理念を追求していきたいと思っています。

京大生にメッセージ

——大学時代に学んで役立っていることはありますか？

学生の間は論理的な考え方、研究や仕事の進め方などを学ぶものだと思います。私に関してはオーケストラのサークル活動を通して学んだことも多いです。あり余る時間を使って、音楽について真剣に考え、取り組むことができました。それが、VOCALOIDの進むべき方向や将来の音楽について考えるときに、役立っているのかもしれない。

学問に関して言えば、大学の時には音響ではなく電波について研究していました。電波と今の仕事に関わる音声は違うものですが、似ている部分もあります。大学での研究が続けられるということはよっぽど恵まれた人でない限りまずありませんが、大学で身につけた素養に関しては今の仕事においても役に立っていると強く感じていますね。

——今振り返ってみて京都大学の特徴は何だと思いますか？

自由の学風というのはその通りで、何でもできることが京大の特徴であり長所だと思います。それを生かして、さまざまな経験をすることで自分がどういった人間であるのかわかってくるものだと思います。もちろん、早いうちから専門を必死に勉強することも大切だとは思いますが、たかだか数年で自分が一生やることを決めてしまうのはもったいないです。だって京大は何でもできるじゃないですか。私の場合はそれがたまたまオーケストラでしたね。

また、京大生の多くは斜に構えている節があると思います。みんなが一直線に進んでいる時に、一歩引いて冷静に見る目も必要です。そのような部分は京大OBとして私の中にもあり、今も役立っていると思います。



プロフィール
1993年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。
同年ヤマハ（株）入社。音響関係の研究開発に従事。

——京大生に今やっておくべきことについてアドバイスをお願いします

本をいっぱい読みましょう。自分の専門以外のものもたくさん読んでください。何か1つのことを極めることで見えてくることも多いですが、自分とは関係ない分野に関しても知っておいたほうがいいと私は思っています。特に京大だと専門のことばかり勉強していても時間が足りなくなるわけではないですから。私は理系ですが教養部（現在の全学共通課程）のころに法律の本をたくさん読みました。我々の世界は著作権法とかも重要なので、その時本を読んだことが役に立っている部分もあるかもしれません。ですから、読書はもちろん、学生のころの経験は何でも後になって役に立つものだと私は思っていますよ。

——ありがとうございました